ごあいさつ

広島県安芸郡熊野町
町長　三　村　裕　史

「第４７回ふれあい書道展」が、多くの書道愛好家の御理解と御協力をいただき開催できましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。

広島県熊野町は、江戸時代末期から人々の間で受け継がれてきた筆づくりの技術が、現在も息づいているまちです。書道用筆はもちろんのこと、その高い技術力を生かして作られている化粧筆や画筆は、国内外で高い評価をいただいており、伝統的工芸品「熊野筆」で知られる「筆の都」として、長年その文化を継承し、栄えてまいりました。

本町では、昭和初期から続き、現在も毎年秋分の日に行われている伝統的行事「筆まつり」の開催や平成２０年には、町、事業者及び町民が連携して、筆の歴史と文化の価値を改めて認識し、その魅力を発信することを目的として、条例で春分の日を「筆の日」と定めるなど、「筆の都」として、町全体で筆文化の伝承と発信に取り組んでいます。

さて、ふれあい書道展はこの度４７回目を迎えました。全国４７都道府県また国内のみにとどまらず国外より、最年少は１歳から最高齢は１０９歳までの幅広い書道愛好家の方々から、１８，３６４点というたくさんの応募をいただきました。このことは筆の都熊野町として喜ばしいことであり、筆を持ち、書に親しむ楽しさを多くの方に味わっていただくことで、筆文化の振興と筆を通じた交流が深まっていることを実感しています。

書を志す方はもちろんのこと、少しでも書道に興味のある方、腕試しをしてみたいとう方も是非ご参加いただき、書を楽しんでいただきたいと思います。

結びに、この書道展を開催するにあたり、広島県、広島県教育委員会その他関係諸団体の皆様から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝の意を表し、御挨拶といたします。

第４７回ふれあい書道展について

全国書画展覧会運営委員会
委員長　時　光　良　造

令和５年の夏を迎え、コロナ禍が収束してやっと普段の生活スタイルに戻りつつあります。

「ふれあい書道展」は、書道愛好家の皆様方に支えられて４７回目の開催をすることができましたことに深く感謝を申し上げます。

今回は４７都道府県と海外の１，４７５団体から夏の展覧会としては過去最高の１８，３６４点もの力作が届きました。本書道展にふさわしく、１歳から１０９歳の方まで、実に幅広い年齢層の方からご出品いただき、生涯に渡って書に親しんでいる様子を伺うことができました。また、今回も台湾から多くの作品が届き、筆のつながりを持つ国際色ある書道展となりました。

例年どおり、最終審査は審査長として、元文部科学省教科調査官で東京学芸大学名誉教授の加藤祐司先生、前文部科学省教科調査官で東京学芸大学教授の加藤泰弘先生にご依頼しまして、特別賞４０点の作品を厳正に、丁寧に選んでいただきました。

本書道展は、小・中学生は書写作品を推奨し、いわゆる書の流派などにとらわれない公正公平な審査を高く評価していただいています。

なお、「特別賞」「筆都大賞」「ふれあい賞」の優秀作品は、８月１２日から８月１７日までの６日間、筆の都熊野町の町民会館ロビーにおいて展覧会を開催しました。

本書道展は、筆を持ち、作品を発表した記念にしていただくため、出品者全員に自分の作品画像入りの賞状を贈呈して喜ばれています。書の創作活動を通じて、筆を持つ仲間とのコミュニケーションが広がり、心豊かで充実した人生を送れるようにと願っております。次回も皆様方から力作をお寄せくださいますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに、この書道展の運営及び開催に当たり、広島県、広島県教育委員会をはじめご後援、ご協力をいただきました関係各団体の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。